

会議名	平成 18 年度家畜ふん尿処理利用研究会 「畜産における環境影響評価とその利活用」
開催日時	平成 18 年 10 月 24 日（火）13：00～25 日（水）12：00
開催場所	農林水産技術会議事務局筑波事務所内 農林ホール（つくば市観音台 2-1）
主催者	畜草研。 共催；中央農研センター・日本家畜管理学会
参加人数(概数)	約 140 名（都道府県 63、農研機構等 43、団体等 20、農水省 10、大学 5）
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>環境保全型農業、資源の循環利用のための技術開発が進められているなか、それら技術や生産系の環境影響評価研究が LCA（ライフサイクル・アセスメント）を中心として進展している。この研究会は環境影響評価による畜産の位置付けや実際の評価事例を討議し、問題点の抽出と評価をどのように活用して行くかという最も重要な課題の方策を見出すとして下記の内容で開催された。新たな状況の中での、家畜排せつ物の位置づけの検証と新たな課題についての情報を報告する。</p> <p>1. 「畜産における環境影響評価とその活用」</p> <p>(1) 畜産環境の現状と行政が求めるもの；農水省畜産環境対策室 井村 幸弘 ・水質汚濁防止対策。・水質汚濁防止法の排水規制の強化。・悪臭防止対策。・環境と調和のとれた農業生産活動規範（家畜の飼養・生産編）。・畜産環境対策の今後の課題。</p> <p>(2) 「LCA における環境評価手法を中心とした影響評価手法の現状と課題」；[㊤] 未踏科学技術協会 水野 建樹 ・製品やサービスの一生から発生する環境負荷を評価しようとする LCA は、調査目的・範囲を定めた上で評価対象とするプロセスでの環境付加物質発生量を算定するライフサイクルインベントリ分析（LCI）、その結果を使って製品やサービスによる潜在的な環境影響の重要性を評価するライフサイクルインパクトアセスメント（LCIA）および実施した分析・評価結果から何が環境影響に重要であるかを考察する解釈というというプロセス構成されている。ここで、LCI は基本的に発生量のデータの収集であるから、目的と調査範囲を設定することにより比較的容易にデータを得ることができる。しかし、LCIA については環境への負荷の評価手法の妥当性にも課題があり、社会的コンセンサスがまだ得られていない。</p> <p>(3) 畜産における環境影響評価と畜産一耕種農業系の循環指標の提案」； 畜草研 池口 厚夫 地域（農業）を成立させるためにどのような畜産システムが必要であるのかという視点での評価の方法を考えて行くことも大きな課題である。</p> <p>(4) 地域施策を対象とした LCA と環境効率指標の提案：ふん尿利用とインフラ整備を中心に 産総研 栗島 英明 研究開発を通じて得られた地域施策に対する ICA（ISO14040 による）の概要を示し、3 事例の検討結果煮を紹介。</p> <p>(5) 北海道における地域を単位とした LCA と行政への活用場面； 道立根釧農試 日向 貴久 NEDO の現地調査(二酸化炭素固定化・有効利用技術等対策事業 製品等ライフ</p>

	<p>サイクル二酸化炭素排出評価実証等技術開発／地域産業にかかわる LCA) より。</p> <p>(6) 総合討論 (座長：羽賀 清典)</p> <p>「畜産における環境影響評価によって何がわかり、何ができるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域的評価は地域間耕種連携なしで解決しない。・原単位の地域性。・環境許容量。・インベントリデータで必要なものは地域で取れ。・他産業との比較。・付加価値戦略のツール。・LCA は評価の手法の一つで、他の手法も考慮。・LCA 電子レンジ論 (入れる材料の問題か、レンジの問題か、魔法の箱ではない)。 <p>2. 「LCA による環境影響評価の実際 (LCA による評価事例)</p> <p>(1) 耕畜連携によるふん尿堆肥リサイクルシステムの環境評価； 中央農研セ 小野 洋</p> <p>(2) 畜産における環境影響評価のための原単位の把握 北海道農研セ 長田 。</p> <p>(3) 畜産における環境影響評価手法 (とくに LCA) の適用の実際； 畜草研 荻野 暁史</p> <p>(4) 環境影響評価のプログラムのモンストレーションと質疑討論</p> <p>①「環境負荷と運転費用の観点からの畜産環境対策施設評価プログラム」 畜草研 田中 靖男</p> <p>②畜産一耕種農業系を対象とした物質収支と環境評価プログラム」 畜草研 池口 厚男</p> <p>③「環境とコストを考慮したふん尿処理システムの検討ツール」 産総研 菱沼 竜男</p> <p>④「水質を基準とした物質収支による畜産の評価」 農環研 三島 慎一郎</p>
<p>2. 今後の研究開発分野として重要と思われる課題・話題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LCA のための原単位充実のための研究開発。 ・環境影響評価手法としての LCA と評価システムの確立。
<p>3. その他の発表課題で関心のあったもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を成立させる畜産システムの構築を目指し、システムを評価する上で必要なインベントリデータ等の基盤データの収集とデータベースの構築等を目標としたコンソーシアムの立ち上げが呼びかけられている。その中で、飼料データベースも重要なツールの一つと考えられる。重複や不整合を避けるためにも飼料成分等についての我が国の統一的な飼料情報データベースの構築が必要と考えられる。
<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性のへの配慮。 ・幅広い共同研究。
<p>5. 会議の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・久し振りの家畜ふん尿処理利用研究会への出席であった。この分野の研究課題が、ふん尿処理施設や個別的なふん尿処理技術開発の時代は終わり、総合化、システム評価、さらには自然科学と社会科学との融合の自体へと変換しつつあることを感じさせられた。
<p>報告者</p>	<p>針生 程吉</p>